

平成 24 年度 学校法人大阪産業大学 事業計画

私学を取り巻く経営環境は、日本経済の低迷、少子化による就学人口の減少、各種補助金の減額、大学間競争の激化等により、一層厳しさを増しています。

また、グローバル化、高度情報化が進展する社会の中、大学には学士課程教育の質の保証や向上が求められています。

本学園は、このような社会状況の変化に対応するため、「透明性とコンプライアンスの堅持」を基本原則に、現行の組織、制度、管理運営体制等、学園の運営基盤を総合的に点検・検証し、その改善を行います。

また、大学が社会の負託に応え、質の高い教育研究活動を永続的に展開するには、経営基盤の安定が必要不可欠となります。本学園では、中・長期の経営計画を策定し、財政や人事政策を確立するとともに、教育・研究事業の達成すべき明確な目標設定と戦略設定を行い、時代の要請に応え得る学園改革を推し進めて参ります。

平成 24 年度の学園全体にわたる事業計画の大要は、次の通りです。

まず、法人としては建学の精神に基づく学園のミッションを達成するため、中・長期計画をもとにその実現に向けて諸施策を推進します。

<財政基盤の確立について>

将来構想の実現に向けて様々な計画を実行するにあたっては、安定した財政基盤が必要となります。まず、予算管理体制を強化して、有効かつ効果的な予算編成と適正な予算執行を図ります。また、社会のニーズに沿った教育改革や就職対策等の推進の下、戦略的広報を展開することで志願者及び入学者を確保するとともに、魅力ある修学環境を提供することで修学意欲を高め、離学率を抑えます。加えて、教育・研究の充実に資する文部科学省の競争的補助金等の外部助成資金獲得体制の強化も図ります。

<人事政策について>

教育職員は、大学設置基準及び学科基幹科目等を踏まえた補充人事を行い、事務職員は業務内容により、その雇用形態を決定した上で有為な補充人事を行うとともに、契約事務員から専任事務職員への登用試験を実施するなどモチベーションを高め、年齢別職員構成の是正も図って行きます。

<修学環境の整備について>

安全・安心な修学環境を構築するために、先ず、大学キャンパスに編入可能な近隣の用地の買収を検討します。大学では学生会館等具体的な整備計画を進めます。加えて、エコ及び経費削減対策のための改修工事及び年次計画的にトイレの改修工事も行います。産大中・高校においては耐震補強工事を引き続き行い、グラウンドの人工芝の張替えも行います。桐蔭中・高校においては、桐蔭新館西側に体育館を新築します。

以上が、平成 24 年度事業計画の基本的な考え方ですが、各機関別の具体的な教育・研究上の取り組み、学生・生徒等の募集計画、校地・校舎等整備計画の内容は以下の通りです。

I 教育・研究等における重点分野

1 大阪産業大学・同短期大学部

<教育>

(1) 高大連携教育の推進

ア. 高校生のキャンパス見学、体験学習を推進するとともに、大学側から高校への出張講義を積極的に実施する。オープン・キャンパスについても、在学生の創意・工夫を活かせるようにします。

イ. 学生、保護者、出身高校の担任教員、学部教員の四者面談をより充実させます。特に、大阪産業大学附属高校との連携を強めます。

ウ. 入学前教育に当たり、上級生たちの指導やアドバイスを活かす工夫として、「エルダー」制を充実します。

エ. 現行の「プロジェクト共育」の裾野をさらに広げます。

(2) 就職支援の充実

ア. 在学生の就職意識を高めるよう、各学部就職・キャリア教育関連科目を導入します。

イ. 企業説明会の開催の頻度を高めます。

ウ. キャリア・カウンセリングを充実します。

エ. 就職先の幅を広げるため、本学卒業生社長との情報交換会をはじめとして、企業との情報交換を積極的に進めます。

(3) 魅力ある学部づくり

ア. 志願者にとって魅力があり、文理融合への方向性を明確にしつつ、社会で有為な人材を養成する学部を創造します。

イ. 総合教育科目、専門教育科目、フィールド教育科目の有機的関連性を保てる学部づくりを検討します。

(4) 地域に開かれた大学づくり

ア. 図書館、食堂等の学内施設をできる限り地域の皆様に開放します。一方、本学学生が地域の行事に積極的に参加することで地域住民との交流を図り、地域に根ざした大学作りを目指します。

イ. 地域で活動するシニア人材を養成するために取り組んでいる「大東シニア大学」で学ぶシニア人材と本学学生とが交流する中で、新たな刺激を受け、学ぶ尊さを体感できるような環境づくりに取り組みます。

(5) 大学の質保証システムの確立

ア. 教学改革のシステム作りを目指します。具体的には、質保証システムを企画し(Plan=P)、それを実行し(Do=D)、その結果を再吟味し(Check=C)、さらに進化させる(Action=A)、いわゆるPDCAサイクルを確立します。

イ. 卒業生の社会人を維持・発展させるための各種講座を設定します。そのためにも、各学部が創意工夫して「ホームカミング・デイ」を充実したものにします。

(6) 学生の在籍率を減少させない取り組み

ア. この大学で学ぶ楽しさを在学生に実感してもらうための施策を講じる。具体的に

は、キャンパスにいままで以上に長く滞在して、教育職員、事務職員、在学生との交流を密にしたいと思ってもらえるように、すでに各学部で実施している担任制を、より内容のあるものに進化させます。

イ. 大学の基本的な三本柱を明確にし、継続する。第一の柱は、「アドミッション・ポリシー」であり、建学の精神である「偉大なる平凡たれ」を実践する能力のある学生を入学させること。第二の柱は、「カリキュラム・ポリシー」で、幅広い人間力・社会人力・課題を自ら発見し、それに取り組む実践力を学生に身につけさせる。第三の柱は、「ディプロマ・ポリシー」で、社会活動に貢献できる深い洞察力と応用力を備えた卒業生を社会に送り出すこと。

ウ. 入学前教育、初年次教育を充実させるため、既存の各組織の役割分担を整理し、有機的な連携を強化します。

エ. 学生の積極的なボランティア活動を支援します。

オ. 日本人学生と留学生との心の交流を促す施策を推進します。

<研究>

(1) 先端研究の推進

ア. 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」への新規申請

工学部から3件、経済学部（アジア共同体研究センター）から1件、人間環境学部スポーツ健康学科から1件を申請します。

(2) 文部科学省科学研究費補助金の獲得

ア. 独創的、先駆的な学術研究を行うため、必要な補助金の獲得に注力します。

(3) 先端の委託研究等の推進

ア. 水素エネルギー社会実証事業の研究の一環として、「おおさかFCV（燃料電池自動車）推進事業」を推進します。

(4) 大学間連携研究の推進

ア. 他大学との協定による連携研究の募集及び研究を推進します。

(5) 先端研究発表会等の開催

ア. 研究成果発表会を開催します。

イ. 公開講座（市民講座、実践講座、科学研究費補助金研究成果発表会、他）を開催します。

ウ. イノベーションジャパンをはじめとする大学見本市や産業展への出展を行います。

(6) 産学官地域連携の促進と技術移転

ア. 地域との連携（だいたう産業活性化センター、大東市産学官連携事業推進委員会、大東市3者連携協議会、大東市地域商店街活性化事業、大東市名物選定事業、東大阪“ものづくり観光”活性化プロジェクト協議会、東大阪市産官学交流事務局会議、東大阪市大学連絡協議会、東大阪産業展実行委員会等への参画）を促進します。

イ. 企業との連携と産学連携コーディネーターの活用

技術相談オフィスを開設（クリエイション・コア東大阪）し、受託研究・共同研究を推進

します。

ウ. 知的財産管理体制を強化し、広域大学知的財産アドバイザーを受入れます。

エ. 地域の金融機関と本学発ベンチャー企業への設立支援、資金支援に関して連携（協定金融機関：南都銀行、大阪東信用金庫）を図ります。

オ. Wellness2008 を活用した地域のスポーツ健康活動（いきいき大東クラブなど）及び企業からの受託研究を促進します。

＜自己点検・評価＞

本年度、大学では公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）申請を行い、審査を受けます。認証評価では、本学における教育研究活動や環境、学生の受け入れや支援、社会貢献、組織運営、財務等に対する自己点検・評価の実施、さらに、改革・改善に繋げるための内部質保証システムの構築状況について評価・確認を受けます。

2 大阪産業大学附属中・高等学校

＜教育＞

(1) 中学校

ア. 本校独自のカリキュラムを確立

中学1、2年の2年間で「基礎力養成期」として位置付け、中学課程の履修内容の習得に努めます。さらに中学3年の1年間は生徒の希望により、附属高校に進学（内部進学）するための効率的な学習が可能な「中高連携コース」と他の高校や系列の大阪桐蔭高校に進学するための「3年受験コース」に分け、生徒及び保護者の希望する進路を実現します。

イ. 重点教育

実用英語検定等の資格検定試験を積極的に導入し、その対策を講じて「英語の強い学校」にします。同時に「数学・理科」の教育環境を充実させ、将来、理工系、医歯薬系の進学者を増やします。

(2) 高等学校

ア. 設置する普通、国際各科の独自性を明確に打ち出し、発展させます。

イ. 大阪産業大学との高大連携教育をさらに推進します。

産大進学コースを設置し、卒業生の半数を産大に進学させます。

ウ. 退学者を減らす対策に取り組みます。

エ. クラブ活動の充実と指導の徹底を図ります。

- ・「文武両道の学校」を目指します。
- ・強化指定クラブ（硬式野球部、テニス部、サッカー部、ラグビー部、アメリカンフットボール部、柔道部、バレーボール部等）は、スポーツ推薦制度を活用し、優秀な生徒の獲得に努め、熱心で充実した練習を経て全国大会出場を実現させます。
- ・文化的、芸術的な技能を持った者やスポーツで個人競技等一芸に秀でた者等を積

極的に入学させます。

- ・女子生徒の増加に対応するクラブの設置を検討します。

3 大阪桐蔭中・高等学校

＜教育＞

(1) 生徒、保護者の期待に応える学校運営

在学中の生徒に対する、教育の重点は、個々の生徒、保護者が所期の目的を果たし、満足して学業を終え、卒業させることにあることから、カリキュラムを一層充実させ、教科指導を徹底することで、より高いレベルの大学進学実績の向上を目指します。

また、高等学校Ⅲ類強化クラブにおいては、心身の鍛錬、芸術・技術力の向上を図り、いずれも全国大会への出場を目指します。

(2) 体育館の建設

体育館の建設は、平成 23 年度に着手することができました。今後は、早期完成を目指して、保健体育の授業で必修となった「武道」の実施に供します。

4 大阪産業大学孔子学院

＜教育＞

平成 24 年度は、開設 5 年目の重要な節目であり、これまでの実績を踏まえて本来の孔子学院として期待されている以下の事業を行います。こうした諸活動を通じて日中交流の絆を深めるとともに、大阪産業大学の社会的貢献をアピールします。

(1) 開設 5 周年記念行事

(2) 中国語の各種教育、研修の実施

(3) 中国文化・言語・経済に係わる講演会ならびにシンポジウムの実施

(4) 中国文化にかかわる文化イベントの開催

(5) 漢語水平考試（HSK）の実施・運営

(6) 日中交流のためのイベントの実施

II 学生・生徒等の募集計画

1 大阪産業大学・同短期大学部

(1) 入試制度の充実

本学の入試は様々な制度を導入し、受験者数が下げ止まっています。このように一定の成果を得ることができましたが、次は受験者の質の維持・向上をめざして制度を見直す時期に入りました。競合大学の動向や高等学校の進路担当者等の意見を総合的に勘案して種々検討を行います。具体的には下記の通りです。

ア．実業科系公募推薦入試の選考方法を見直します。

イ．公募後期推薦入試における複数出願制度を導入します。

ウ．地方試験会場を見直します。

エ．学力系入試の募集定員の拡大（学力系入学者増加を目指す）を図ります。

(2) 経済的支援

入学納入金の分割納入期間の延長、金融機関による入学納入金貸付制度の導入、また、地方からの入学者増を推進するため、民間委託による「学生寮」の設置等を検討します。

また、平成18年度から導入している大学入試センター試験利用入試前期日程及び一般前期入試の成績優秀者に対する授業料の免除（減免）制度を継続させ、引き続き優秀な学生の獲得を目指します。

(3) 入試広報の強化

ア. 高校内説明会（出張講義を含む）の積極的参加

1・2年生を対象とした分野別説明会や大学進学総合説明会に積極的に参加していますが、より多くの高校生と接することができる説明会等の機会を通じて、直接本学をアピールし、オープンキャンパスや大学見学会への参加を促し、本学の受験につながります。

イ. 重点広報地域

関西地区の高校を重点広報地域とし、定期的に訪問して広報活動を行っています。今後は、中・四国及び山陰地方を関西地区以外の重点広報地域に加えて志願者獲得を目指します。

ウ. オープンキャンパスの充実

受験大学を決定する要素として、高校教員や保護者から助言、就職状況、経済的支援、大学の雰囲気等が大きな影響を及ぼします。そのため、教職員及び学生スタッフの受験生や保護者に対する対応を正確かつ丁寧に行えるようにします。また、イベント内容を見直し、インパクトのあるオープンキャンパスを企画します。

エ. 高校単独の大学キャンパス見学会の積極的受入

各高校が単独で大学キャンパスを見学したいという要望が年々増加しており、これに積極的に対応します。

(4) 附属高校との連携強化

大学を身近に感じることができるよう、体験学習を積極的に実施します。また、体育系クラブの優秀選手を確保できるように、スポーツ分野での高大連携システムを強固なものにします。

2 大阪産業大学附属中・高等学校

(1) 中学校

ア. 募集定員（80名）を確保します。

イ. 「塾」対策を強化します。

ウ. 学校広告、募集広告は厳選の上、効果的な広報活動を行います。

エ. 大阪桐蔭中学校と合同で塾対象説明会を実施します。

(2) 高等学校

ア. 大阪府及び大阪中高連からの臨時定員増の要請を受けた増員枠と併設中学校からの内部進学者40名（見込み）を含めた入学者数を確保します。

- イ. 中学校への積極的な訪問を行います。
- ウ. 大阪市内、北河内等近隣地域への広報活動を重点的にを行います。
- エ. 耐震補強工事をはじめ、新校舎、体育館、グラウンド整備について検討します。

3 大阪桐蔭中・高等学校

(1) 募集人員

中学校は、平成 24 年度も前年通りとし、高等学校は、外部募集人員を 480 名とします。

(2) 募集方針

高等学校においては、国及び大阪府をはじめとする府県の就学支援助成制度の創設、大阪府立高校の募集人員減等の影響により、私立学校志向は高まっていますが、安定的な生徒の確保を図るため、魅力ある学校、満足できる成果を得る学校をアピールし、募集活動を展開します。

募集活動に当たっては、高い目標を掲げ挑戦する学校であること、質の高い独自のカリキュラム、質・量共に充実した教科指導、生徒に対するきめ細かいフォローと熱意ある教師陣、その教育成果の一つとして大学合格実績をアピールポイントとします。

具体的には、前記の魅力を「知ってもらおう」「理解してもらおう」ことを重点とし、中学校、塾への訪問、各種の説明会への参加、各種媒体を通じての効果的な広報活動に積極的に取り組みます。

Ⅲ 校地・校舎等整備計画

1 学校法人大阪産業大学

整備項目
法人用地買収

2 大阪産業大学・同短期大学部

整備項目
学生会館新築工事
トイレ改修工事（本館・9号館）

3 大阪産業大学附属中・高等学校

整備項目
1号館耐震補強工事
中学棟耐震補強工事
グラウンド人工芝の張替

4 大阪桐蔭中・高等学校

整備項目
体育館建設

以上